

## 理想的な福祉車両を目指して

### ～福祉車両の現状と問題～

内田史武 加藤穂江 黒澤俊也 竹腰信人  
中条美月 葺石陽亮 下釜翼

#### はじめに

現行の乗り物の多くは健常者を対象にしたもののため、障害者や高齢者が利用するのは困難である。そこで、障害者自身にとって、あるいは障害者を介護する人間にとって、利用しやすい乗り物とはどのようなものなのか、福祉車両の現状を調べるとともに、よりよい福祉車両を模索・考案する。

#### 対象と方法

障害のある A さん、高知県立障害者スポーツセンター、南四国スズキ販売株式会社アリーナ高須店にて福祉車両についてインタビューした。

#### 結果

##### 1.A さんの話から見えてきた問題点

- ・雨天時に車に乗り降りする際、どうしても濡れてしまう
- ・両手が塞がるため、車の中で食事を摂ることや虫を払うことができない不便はある
- ・ドアをいっぱい広げなければならないため幅の広い障害者用駐車場を使う必要があるが、健常者がよく停めていることにより障害者の社会復帰の妨げになる
- ・車椅子で乗れるバスは高知県内に 2 台のみであり、路面電車はスペースや段差の都合上利用出来ない（車椅子の人の 20 cm は健常者の 2 m の壁と同様であるようだ）
- ・（車とは少し話題がずれるが）障害者用トイレがないことが問題

##### 2.高知県立障害者スポーツセンターでの話から見えてきた問題点

- ・路面電車では低床電車の数がまだまだ少なく、そもそも駅が狭いため怖く乗りづらい
- ・よさこいぐるりんバスは歩道との段差にズレが大きいと乗ることが出来ない
- ・行政だと福祉に税金を使えるが、民間の経営するバス会社では採算がとれない
- ・ほぼ最低限の改造のため車いすを乗せる際に車輪がお腹の上を走るような形になるので、女性の腕力では負担が大きい
- ・車椅子を乗せる際に、車の側面を傷つけてしまう
- ・車椅子から運転席に移るのは、慣れるまで時間がかかる
- ・バスを利用するには前日に予約が必要であるため、利用者は無いに等しい
- ・高知では試乗出来ないため、カタログでしか見ることが出来ない

- ・車そのものよりむしろ障害者用駐車場の充実をしてほしい
- ・都会は公共交通機関の環境が充実しており、駅で駅員がスロープをもって待っていてくれるが、高知は無人駅が多く、利用できる駅は非常に少ない。高知駅で乗れたとしても目的地で降りられないという状況になる
- ・車いす対応のバスはただでさえ少ない上、メイン路線しか走っていない

## 考察

金銭的な問題を除けば、理想に近い車両もある程度開発されているのではないだろうか。その金銭的な問題を解決するためには国や地方自治体からより大きな支援をして貰う必要がある。しかし、全ての障害者の方に一律して助成金を増額することは現実的ではない。むしろ、どんなに改良された福祉車両でも乗り降りには車いす分の物理的スペースが必要で、障害者専用駐車場でないとも乗り降りできないことが多く、従って、健常者は福祉車両について理解を深め、障害者専用駐車場を利用しないといった身近な努力こそが重要だと考える。(ちなみに海外では障害者専用駐車場に駐車すると罰金を課している)

## まとめ

- ・今回は障害者が運転する福祉車両を重点的に調査した
- ・障害者の方は車を持つことでライフワークが広がり、QOLが高まった
- ・障害者はある程度満足して車両を利用しており、個人的な嗜好で選んでいる
- ・改善点は車両そのものよりも福祉制度や環境であると考え